平成17年 公共事業環境配慮システム評価状況について

【平成17年目標配慮率】 全事業種一律 **70%**

1 実施配慮率について										
U		評価件数及び実施配慮率(%)								
No.	事業種名	計画		謟	設 計		施工		総合	
		件数	配慮率	件数	配慮率	件数	配慮率	件数	配慮率	
1	道路の整備事業(街路)	0	-	1	100	0	-	1	100	
2	道路の整備事業(道路改良)	4	92	15	97	4	100	23	97	
3	道路の整備事業(道路維持)	1	100	2	100	3	100	6	100	
4	道路の整備事業(農道)	0	-	2	86	2	100	4	93	
5	道路の整備事業(林道)	0	_	1	100	0	-	1	100	
6	下水道の整備事業	1	67	4	86	0	-	5	82	
7	河川の整備事業	2	100	3	100	4	96	9	98	
8	海岸の整備事業	0	_	0	-	0	_	0	-	
9	砂防施設の整備事業	3	100	8	96	0	-	11	97	
10	斜面の整備事業	0	-	2	88	1	100	3	92	
- 11	港湾の整備事業	0	_	0	-	2	75	2	75	
12	建築物、工作物の整備事業	0	-	1	100	2	100	3	100	
13	廃棄物処理施設の整備事業	0	_	0	-	0	-	0	-	
14	農業農村の整備事業(農道を除く)	2	100	11	82	30	97	43	93	
15	漁港、漁村の整備事業	1	100	1	100	3	100	5	100	
16	治山事業	0	-	0	-	1	100	1	100	
17	空港の整備事業	0	_	0	-	0	-	0	-	
18	公園、緑地の整備事業	1	_	0	-	2	100	3	100	
19	工業団地の整備事業	0	_	0	-	0	-	0	-	
	発電所の整備事業	0	-	0	-	0	-	0	-	
21	工業用水道の整備事業	0	_	0	-	0	-	0	-	
	全事業種トータル	15	96	51	93	54	97	120	95	

※ 上記数値は、平成17年1月1日~12月31日に完了した事業のデータを基に作成したもので

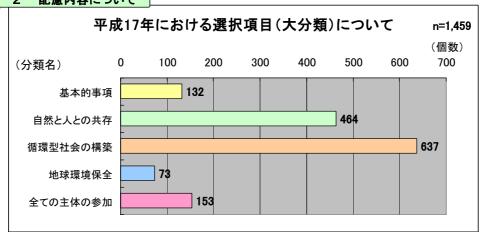
_・ 【参考:実施配慮率の状況】

配慮実施率(%)	件数
100	89
90以上100未満	14
80以上90未満	8
70以上80未満	3
70未満	6
計	120

【コメント】

- ◆ 全事業種において数値目標を達成(実施配慮率95.0%)!
- ◆ 実施できなかった事項の主な原因と改善策 《全般》
 - ◎予算上の制約
 - → 配慮の必要性の明確化、事業制度や予算の 範囲内でできることの検討・実施
 - 《システム関係》
 - ◎選択項目が少ない → 配慮事項の洗い出しの徹底 (できるだけ多くの項目を選択する)
 - ◎入力機会の不足
 - → 勉強会実施や班内等の密なコミュニケーション

2 配慮内容について



【コメント】

生態系保全等を主とした「自然と人との共存」やリサイクル・公害防止等を主とした「循環を基調とした社会の構築」という、いわば従来型の環境分野は多く選択していた。

一方、温暖化防止をはじめとする「地球環境保全」や住民参加・情報公開等を主とした「全ての主体の参加」については、低調だった。

3 優良事例のPRについて

【優良事例発表会の実施】

日時: 平成18年1月31日(火) 午後1時から午後3時まで

場所:第2庁舎 8階 大会議室

参集: 県職員、国・市町村・団体の関係機関等 計152名参加

- 内容:① システムの概要

 - ② 優良事例の発表(5事例) ③ 副知事による講評



熱のこもった発表



熱心に聞き入る職員等

平成17年度 おらほの現場の 「とっておき」 発表事例



河川の整備事業

広域基幹河川改修事業 桧木内川 (田沢湖工区) 発表者: 仙北地域振興局 建設部河川砂防課職員

《配慮のポイント》

〇 護岸における自然石の採用等自然 との共生を図ったモデルケース



農業農村の整備事業

担い手育成基盤整備事業

発表者:仙北地域振興局仙北平野 農村整備事務所職員

《配慮のポイント》

○ 整備後の維持管理のあり方も含めて 地域住民等とともに考え実施



←県では公共事業 の環境配慮のため 手引き(グリーン ブック)を作成し、事 業の計画、設計 施工の各段階で活 用しています。



建築物、工作物の整備事業

秋田県立中高一貫教育校整備事業 横手清陵学院

発表者:建設交通部営繕課職員

《配慮のポイント》

○ 駐車場の排雪を冷房システムへと 利用する一石二鳥のアイデア



道路(林道)の整備事業

ふるさと林道緊急整備事業 花矢線

発表者: 北秋田地域振興局農林部 **森づくり推准課職員**

《配慮のポイント》

○ 間伐材や県認定リサイクル製品を 積極的に利用



GREEN BOOK



海港漁村の整備事業

地域水産物供給基盤整備事業

岩館漁港地区

農村整備課職員

《配慮のポイント》

○ 地域の生態系維持のために代替環境 (ハタハタの産卵場所)を整備

H18 目標配慮率について

【平成18年目標配慮率】 全事業種・全段階一律 70%

【コメント】

①目標設定の基本的考え方

システム入力に習熟し、配慮知識の習得と意識の向上を図る

②配慮内容の充実のための運用上の目標と呼びかけ(新規)

O1件あたり選択項目数の増 H17 平均8.9=9項目 ⇒ 10項目(目標)

【主な取組(予定)】

○優良事例発表会の実施 → 環境配慮の積極的PR、職員のやる気向上

○事業種別配慮事項の標準仕様の提示 → 環境配慮の意識付け=「気付き」
○システム入力研修の実施 → システム習熟度向上

